

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標

教育目標

校訓―「自主 互譲 責任」を理念として、生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。

教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざし地域に貢献する学校づくり、地域に信頼される魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。
- 2 多様な教育活動をとおして、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公德心を培う。
- 3 温かさとしの厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導をとおして、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。
- 4 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。
- 5 国や郷土の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を考えさせる。

めざす学校像

規律・学び・活気ある学校

- 1 基本的な生活習慣やマナーが確立した、規律ある学校
- 2 多様な学びを通して学習意欲を高め、基礎学力を伸ばす、学びの充実した学校
- 3 チャレンジ精神を持ち、仲間と協力し頑張ることが楽しい、活気あふれる学校

重点目標

生徒が主体的に行動し挑戦することで一人一人の可能性を伸ばす教育活動の推進

- 1 生徒理解に基づく生活指導をとおして、基本的な生活習慣や社会人として求められるマナーを確立するとともに、互いの立場を理解し尊重し助け合う温かい心と強い心の育成を図る。
- 2 小規模校の特性を生かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶ意欲と学力を高めるとともに、進路実現のための取組や資格取得の機会を強化する。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動・ボランティア活動などをとおして、体験的・実践的な学びの中で達成感・自己有用感を育み、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- 4 地域との連携を深め、まちづくり活動や地域の活動に参加することで、自己実現とキャリア形成を促し、地域に貢献する高い志を持つ生徒を育成する。
- 5 連携型中高一貫教育校として、6年間をとおして生徒を育成する連携・交流のあり方を研究・実践し、連携中学校とともに、より一層の教育活動の充実を図る。
- 6 広報活動の積極的な展開により地域の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- 7 生徒の能力・適性、興味・関心や多様な進路希望に基づき、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。

学校自己評価

[評価] 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

番	領域	評価の観点	評価項目	令和4年度実践目標	R4 平均	R4 評価	R3 平均	R3 評価
1		開かれた学校づくり	中学校との連携事業	本校文化祭、連携中学校文化祭、合同芸術鑑賞会、クリーンアップ大作戦、授業公開などコロナ禍でもできる教育活動をおして中高の連携を推進し、生徒の活躍の様子や本校の特色・魅力を連携中学校に伝えていく。	3.1	B	3.1	B
2			中学校との生徒会交流	生徒会役員がリーダーとなり、中学生と一緒に、道の駅のタベ、八宿まつり、青葉荘訪問などの企画や運営を行う。また中学生に対して、オープンハイスクールなどの機会に学校紹介プレゼンを行う。	2.9	B	2.8	B
3			地域への貢献	本校生徒全員が1人1つ以上のボランティアに参加することを目標に、生まれ育った郷土を愛する心や、地域に貢献する姿勢を養う。	2.9	B	2.9	B
4			広報活動の充実	スクールニュースやHPを充実させ、保護者や地域の方々に本校の活動を理解してもらうとともに、学校行事や授業への参加や見学をしてもらうよう促す。	3.4	A	2.7	B
5	学校運営	生徒指導	生活習慣の確立	あいさつや掃除の徹底、遅刻の防止、服装、頭髪等の校則違反を防止し、規律のある学校をめざす。	2.6	B	2.5	B
6			小規模校ならではのきめ細かい指導	生徒との面談や日常的な観察をおして生徒理解に努め、すべての教員が生徒の情報を共有することで、生徒理解に基づくきめ細かい指導を行う。	3.4	A	3.4	A
7			生徒指導体制の推進	校則違反、問題行動の防止のため、昇降口での登校指導と校内外の巡回指導を実施する。いじめの早期発見と未然防止のため、学校生活に関するアンケートと随時面談を実施する。生徒指導部と学年担任とで連携し、組織的に機敏な対応を行う。	3.3	B	3.4	A
8			学校行事の充実	体育大会、文化祭等の学校行事に、感染予防を徹底しながら、生徒が主体的に取り組む場面をつくり、積極性や協調性を育てる。	3.6	A	3.6	A
9			部活動の活性化	部活動に積極的に取り組む生徒の数を増やし、明るく活気あふれる学校をめざす。	3.1	B	3.1	B
10	進路指導	進路指導体制の充実	個に応じた指導を行うため、個々の学力把握、ポートフォリオを実施し、必要な進路情報を提供する。	3.1	B	3.2	B	
11		進路意識の向上	体験的な進路ガイダンスを実施するとともに、地域社会と連携したボランティア体験等を通して、体験的に進路意識を醸成する。	3.3	B	3.1	B	
12		職業観・勤労観の育成	進路座談会、インターンシップ、社会人による授業等を通して、望ましい職業観、勤労観を育成する。キャリアノートを軸にして系統的に進路指導を行う。総合的な探究の時間を軸にして探究的な進路指導を行う。	3.1	B	3.3	A	
13	教職員の資質向上	授業改善	教科の枠を越えた課題に対して、全教員で研究授業に取り組むことにより授業の見直し、改善を行うための機会とする。	3.0	B	2.9	B	
14		計画性を持った研修の実施	教育相談、特別支援教育、ICT活用、進路指導等の諸問題について校内研修を計画的に実施する。	3.4	A	3.3	A	

15		環境整備	落ち着いた学習環境の整備	清掃やごみの分別を確実にし、公共心と責任感を育てる。ロッカーを利用するなどして教室の環境整備を徹底する。	2.6	B	2.7	B
16	教育課程	自ら学び考える力の育成	自主的に学ぶ授業場面	ペアワークやグループワークなど積極性や協力を形成する授業を工夫し、主体的・対話的で深い学びを促進する。	3.1	B	2.9	B
17		基礎基本の定着	学習評価の工夫	学習活動の具体的な評価規準を提示し、生徒の学習意欲を高めるような学習活動の評価を工夫する。	3.1	B	2.9	B
18			学び直しの工夫	学校設定科目パワーアップを軸に、授業や補習等の内容の工夫を行い学び直しの機会を充実させる。	3.3	B	3.3	A
19		個に応じた学習指導の徹底	指導方法、指導内容の工夫	習熟度別授業や少人数指導によりきめ細やかな学習指導を実施し、指導方法や指導内容の工夫を行い、個に応じた授業づくりを行う。	3.4	A	3.4	A
20			各類型特色化の推進	生徒個々の進路と興味に応じた類型による教育を推進する。目的意識を持って各種資格試験等に意欲的に取り組ませる。	3.1	B	3.0	B
21	課題教育	防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	防災避難訓練を実施し、職員・生徒を対象に危機管理意識を高め、安全教育を推進する。職員と生徒を対象としたAED心肺蘇生講習会を実施する。	3.2	B	3.2	B
22		人権教育	確かな人権意識の育成	課題に応じた人権ホームルームを各学年で定期的に行う。性教育や特別支援教育と連携した研修会を実施し、一人一人の人権意識の高揚や認識の拡大を図る。	2.9	B	2.9	B
23		特別支援教育	チームで行う特別支援教育	氷上特別支援学校やキャンパスカウンセラーとの連携により、多角的な視点で日々の学習指導や生活指導を行う。特別支援教育校内研修会を定期的に行い必要な情報を全職員で共有したり、関係機関から助言や情報提供を得たりすることで専門性向上を目指す。	3.4	A	3.5	A
24			効果的な縦横連携に向けて	サポートファイル、中高連携シート、指導計画、支援計画を用いることで切れ目のない個別最適な指導・支援につなげる。また、必要に応じて卒業後も支援を受けられるよう本人、保護者、関係機関と連携した支援の方法を構築する。	3.5	A	3.5	A
25		社会人基礎力	心のサポートシステム研究開発	小中高連携、地域連携を推進し異年齢の考え方を理解し、自尊感情を高め、自己有用感を育て、社会人基礎力を育成する。	3.1	B	3.1	B

学校関係者評価

- ・(卒業式で卒業生と保護者を向かい合わせの対面形式にて実施したことを受けて) 小中学校の卒業式は対面式なので、この形式に違和感はなかった。ただ、小中は雛段を設置して2, 3列目の生徒も見える。今回の形は続けてほしいので、ぜひ雛段の設置を考えてほしい。
- ・生活実態・学習状況調査結果の「③学級の生徒との間で話し合う学習活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の結果を見て、対話型の学習ができているように思った。授業公開の時にも生徒の目が生き生きとしていて、高校の授業が良い雰囲気であることを嬉しく思った。また「将来の夢を持っている」生徒の割合をみても好ましい結果がみられる。
- ・成人年齢が18歳になったこともあるが、保護者は介入を減らして自立を促すべき。保護者アンケートにある「本校職員は生活習慣の確立、モラルを身につけるために適切な生徒指導を行っていると思いますか。」も、本来は学校に求めるべきではない。
- ・佐治スタジオーまちづくり部の連携した活動が増えてきている。先生方への負担も増えているのではないかと遠慮なく言ってほしい。学校側からの要望があれば聞きたい。基本的には生徒が自分たちで考え、それをサポートするというスタンスをとりたい。
- ・連携中学校アンケートにある、西高のイメージについて「生徒指導」という言葉は中学生にわかるのか？答えやすい内容にしてはどうか？また、中学時代に辛口の評価をしている生徒が西高に入って、どのように変わるのか評価の変化も追跡できれば。全体的にイメージは良くなっているように思う。
- ・西高は個別対応が行き届いている。配慮を要する生徒に対する対応も、就労支援もしっかりしている。アンケートや数字ではわからないことが多い。こんなエピソードも紹介したい。中学校で「勉強したくない」「高校に進学しない」と言っていた生徒が、西高の文化祭に来て受験を決めた。「勉強していない」と数字には表れているが、英語、数学以外の学びが多い。生徒の想いが実現されていることが多いように思われる。
- ・文化祭を見て生徒の表現力に感動した。
- ・我が子も勉強しているようには思えないが、勉強させるために西高を選んだわけではない。「自立」「社会に出てから必要な力」を身につけることができる。ラジオ出演も自分たちでできるようになった。「自分たちで考えてやる」のが西高の良さだ。
- ・コロナ禍でできなかったことが多かったが、そんな中でもコロナ禍以前よりもよくなっているように感じる。このまま続けてほしい。
- ・PTA役員をするまで西高のことを知らなかったが、少ない人数で行事を自分たちで作り上げて、こんな学校は他にないと思う。これからも維持して行ってほしい。
- ・地域の人から「野球部の夏の一勝はずばらしかった」という声を伝えておきたい。
- ・一人一人の生徒を丁寧にみられていたり、一人一人を尊重された取組が、生徒の生き生きとした表情に表れていると思いました。卒業生の中で、進学にともない、しばらく丹波市を離れても将来は「戻ってきたい」という記事を読み、心があたたかくなりました。学校での対話を大切にしたり学びや、地域活動を自主的に取り組み、地域・住民・事業所等を巻き込み、達成感や責任感を味わい自己肯定感を高められるよう西高ならではの工夫を期待します。
- ・もう少し生徒たちが勉強の面白さを分かってくれて、主体的に取り組んでくれたら良いのにと思います。しかし、少人数校の良さを発揮して手厚い対応がなされているため、西高があったから良かったという声を聞きます。このことは各先生にとっては大変だと思いますが、今後も頑張ってくださいと思います。eスポーツについても期待しています。